

ユーラシアンホットライン

「ユーラシアンクラブ創設の 20 年」(52 頁)が完成、参加者の皆さんにお渡しします。

アジアの大使、文化担当者、国際交流団体、国立民族学博物館、蒼国来関が参加します



顔が見え、声が聞こえる交流を模索



ユーラシアンクラブ創設の二十年

4 月 28 日(日)に日本橋での「ユーラシアンクラブ創設 20 周年の集い」の準備が進んでいます。当日会場においてになる方々にお渡しする冊子「ユーラシアンクラブ創設の 20 年」(52 ページ)も完成しました。財源不足で本文は白黒となりましたが、多くの人に支えられた 20 年であることが分かります。心から感謝いたします。今回の集いには、創設のきっかけとなったアムール川右岸の先住少数民族村シカチアリャンから民族文化伝統継承者ビクトリア・ドンカンさんをお招きします。ドンカンさんは、1993 年 2 月 10 日、九段会館で開催した創設のためのシンポジウムにも招かれた 14 人の少数民族代表団の一員として来日、以後、シカチアリャンでの自立のための縫製加工事業立ち上げに努力、日本人との交流の中心として活動してきました。村では、ナナイの伝統歌謡、舞踊などを子どもたちに伝える民族文化継承者として活動しています。2015 年 5 月に、国立民族学博物館やユーラシア文化館で開催予定の「300 人の村シカチアリャンの古代絵画展」の村側の担当者でもあります。

日本橋での集いには、アフガニスタン大使館、モンゴル大使館、キルギス大使館から大使、イラン大使館、タジキスタン大使館、ウズベキスタン大使館、中国大使館から文化担当者が参加するほか、国際交流団体の関係者が多数参加の予定です。

勝訴判決を勝ち取り、2 年間のブランクを克服して幕内復活に挑戦している蒼国来関もご参加いただく予定です。

江藤セデカ理事長はアフガニスタン出身で、広くアジア諸民族の理解親睦協力の重要性を訴えて活動しており、バー・ボルドー(富川力道)副理事長は内モンゴル出身で、日本のモンゴル人のリーダー的存在で、やはり広くアジアの交流促進の意義を理解している方です。

お二人とは、東日本大地震の被災地支援や愛川町での音楽祭、中津川モンゴルフェスティバルなど一緒に活動してきました。今後さらに日本橋での活動も含め新しい視点と取り組みが提案されることになっている。新生ユーラシアンクラブを応援していただきたいと希望しています。ユーラシアンクラブ創設 20 周年の集いは、4 月 28 日午後 1 時半から 4 時半まで、中央区日本橋三越前のイタリアンレストラン「カレンダー」で開催されます。皆様のおいでをお待ちしています。お申し込みは、FAX 046-265-0167 までどうぞ。

● おめでとう。蒼国来関勝訴!! 名古屋場所(7月7日初日)で復帰が確定!!

このニュースレター141号でも取り上げた不当解雇(解雇理由を示さず通告)で地位保全の裁判を起こしていた内モンゴル出身の大相撲力士蒼国来さんが解雇不当の勝訴判決を勝ち取りました。蒼国来さんは、これまでの経過に恨み言も言わず、率直に現場復帰を喜び稽古に精進しています。北の湖理事長は蒼国来に直接、謝罪。話し合いの結果、5月12日初日の大相撲夏場所での復帰を見送り、名古屋場所(7月7日初日・愛知県体育館)の西前頭15枚目で戻ることを決めた、と報じられています。蒼国来は「(北の湖理事長から)『2年間つらい思いをさせてすみません』と言われた。すごく心に響く言葉。ものすごく感動した」と語っているという。北の湖理事長は「土俵に戻る以上は頑張ってください。期待している」とエールを送った。横綱白鵬は「本当にたくさんの涙を流しただろう。よく闘って、我慢した。戻ってきて良かった」と称え、横綱日馬富士も「自分の名譽が戻ったことが、これからの人生で大きなこと。温かく迎え入れたいと思う」と歓迎した。一方で2年間のブランクに心配の声を上げ「大変だと思う。サポートしてあげたいと思う」と話した。

蒼国来を終始支え、裁判の応援をしてきたバー・ボルドーさんは近く激励会を開催する予定です。

蒼国来さんは、愛川町の中津川モンゴルフェスティバルには2回続けて参加、若いモンゴル相撲力士を応援していました。4月28日のユーラシアンクラブ20周年の集いにも参加し、第3回中津川モンゴルフェスティバルにもゲストとして参加予定です。2年間のブランクを克服して蒼国来さんが力を発揮することを心から期待し応援していきたいと思ひます。(大野遼)

● 板坂 優一：1983 年生まれ。北海道出身。2009 年の冬からバックパックとギターを背負って中国からシリアまでアジア横断の旅へ。そこで見た『イスラムの世界』に魅せられ、現在マレーシアのペナンにてアジアの文化、特にイスラム圏について宗教、社会などの勉強をしている。

暑い季節と言えばビールだ。酒好きの私にとってビールはガソリンに近い存在である。特に汗だくになった後のビール



はこの上ない程素晴らしい。そう言う面ではマレーシアが年中暑いのはありがた。マレーシアはイスラム国だから酒は飲めないのは？と思うかもしれない。マレーシアは多民族複数教国なのでビールは普通販売されている。ビールだけでなく、他のアルコール類も普通に商店、コンビニ、スーパー等で販売されて

る。ペナンで主流になっているビールは、タイガー（シンガポール産）、カルスバグ（デンマーク産）、スコール（ヨーロッパ産、詳しくは不明）、が辺りが妥当なラインナップだ。日本で言えばアサヒとキリンとサッポロに値する所だろうか。国産ビールで JAZ と言うのがあるが、これらの 3 強に押され気味なのか近所ではあまり見かけない。なので殆どが輸入物だ。他にもタイ産のチャンビールやヨーロッパ各国からのビ

ールがあり、バリエーションは豊かだ。中にはヨーロッパのアルコール度数 6% の強烈なビールが販売されていて、なぜかインド人達人気である。気に



る値段の方は、はっきり言って東南アジアの物価から比べてかなり高い。酒類はマレーシア政府によって大幅に課税されていて、日本とあまり変わらない値段か、マレーシアの方が

若干安いぐらいの値段になっている。

ペナンは酒が飲める場所も沢山あり、需要も高いようだ。レストランやバーは勿論、ホッカセンター、（屋台の集合体）でも飲む事が出来る。夜になるとホッカセンターではおじさん達が簡易テーブルでしみじみとビールを飲んでいるのを見かける。またバーやクラブは中国系華人の若者や、外国人でいっぱいになり、特に金、土曜の夜のクラブ街はすごい。酒に関して、イスラム教国の割には寛大で、何処でも買う事が出来るし、野外や人目に付く所でも飲んでても何も言われる事は無い。（勿論場所に因ると思うが。）昔、ウズベキスタンで長距離バスの出発を待っている間にベンチに座ってビールを飲んでいたら、ムスリムのおじさんに注意を受けた事がある。そこは人が行き来する所で私はベンチに座って飲んでいた。その時ここはイスラムの国なんだと認識した瞬間だった。ペナンではそう言った事は今まで一度もないが、以前インド人がビールをストローで飲みながらバイクを運転していたのを見た時は色んな意味でそれはダメだろうと思った事はある。（マレーシアでも飲酒運転は違反です）。

ビールの他にも中国酒やウイスキー、ワイン、日本酒や焼酎まで手に入れる事が出来るがかなり高価である。酒では無いが、大きめのスーパー等ではアラブ産のノンアルコールビールも売られている。様々な種類の味があって、ジュースとして見ればかなりレベルの高いクオリティだ。また残念ながらマレーシアには地酒というものは無いと言われているがインド人達が作るココナッツ酒というどぶろく的なものはあるらしい。

このようにイスラムの国であるにも関わらず自由に酒が買えて、その上色々な国の酒に出会う事が出来る事は酒好きにはたまらないだろう。とは言ってもイスラム色の濃い地域、トレガンヌ州、スランゴール州などでは酒類の販売は自主的に規制しているようだ。

【インド通信】 12 号

ケーララの神さま 2

佐藤友美

[1986 年生。幼少期をオーストラリアとシンガポールで、10 代は埼玉県で過ごす。オーストラリア国立大学でサンسكريット語と日本語言語学を学ぶが、優等学位のために書いた論文は津田梅子に関するものだった。その後東京外国語大学の博士課程前期に入学するも、現在休学してインド・ケーララ州で日本語教師として企業勤務。現在の主な関心はケーララ芸能。]

ケーララの祭事や芸能について語る時、避けて通れないのが女神、バカワティの存在です。ヒンドゥーの神々が北インドから流入するよりも前から信仰されていた、とても古い女

神の流れを受け継いでいます。「受け継いでいる」と表現するのは、それがヒンドゥーを取り入れ、取り入れられて、変化をしながら今も存在を保っているからです。より原始的なイ

メージのある蛇の信仰、ナーガよりも古くから奉られていたと言われています。



たとえば前回レポートしたボンガラの祭神も、バガワティの一形態です。ポスターなどでは、戦う女神ドゥルガー（ライオンを従えた姿で描かれる）と

崇る女神カーリーが描かれることもあれば、パールワティ女神が描かれることもあります。共通点があるとすれば、全員が、シヴァの妻だとされる存在だということでしょうか。そして一見穏やかに見えるパールワティでさえ、愛を得るために辛い苦行を自ら進んで行うという、激しさを持っています。北ケララの有名なお祭り、体中を真っ赤に塗るたり、更に真っ赤な装飾を身につけ神をその身に降ろすテイヤムも、女神の儀式です。中部ケララのパダヤニも、やはり女神のお祭り。お寺で描かれるバドラカーリー女神の砂マンダラでは、矛や盾などに加え、屠った悪魔の首も手にしています（私が習っている歌にも、そうした描写があります）。ケララの女神は、やさしげな母の顔よりも、むしろ崇る獐猛な女の顔

を標準仕様にしているように思われます。

元々南インド、ドラヴィダ系の人々は母系社会であると知られていますが、私は身近な例からは、それを検証すること



ができていません。ケララは他の州よりは女性の地位が高いという風にも言われますが、現在はそうした言説も批判を受けることもあり、安易に決め付けることはできません。先進国の目をもって

見ると、どうしても、女性の機会がかなり制限されて見えることは避けられません。

では、そうした女神が、人々にとってどんな存在なのか？という、正直に言って、よく分かりません。ただ、ボンガラの時に集まる尋常でない数の女性たちと、彼女たちが群をなすようにアトゥガルの寺院に参拝に行くのを見ると、圧倒されると同時にもどかしさも覚え、何とも言えない気持ちになります。今、特に町の人々が信仰しているものが、本当に女神なのかという、私には確信が持てないという気がするのです。

メディア・ユーラシア情報 ネットリサーチ

東京外国語大学「日本語で読む中東メディア」が注目 <http://www.tufs.ac.jp/common/prmeis/fs/> です。

【北アジア(含むロシア)】

○ クナーゼ露元外務次官の発言要旨

2013. 3. 29 22:02

ロシアの元外務次官、ゲオルギー・クナーゼ氏

北方領土交渉の非公式提案に関するクナーゼ・ロシア元外務次官の主な発言は次の通り。

―非公式提案の狙いは

「領土を引き渡すという場合、その時期や不動産の所有権、島からの移住を希望する住民のことなど、膨大な技術的問題が伴う。色丹と歯舞の引き渡しを発表すれば、日露双方に大きな抗議が起き、そうした具体論での合意が困難になるだろう。平和条約締結前の協議により、そうした事態を避けるのが目的だった」

―日ソ共同宣言が基本か

「私は91年の秋に択捉、色丹、国後各島を訪れ、住民に『ロシアの利益は守る。だが、利益の1つは国際的責務を果たすことであり、日ソ共同宣言の履行もそうだ』と説明した。『手続きに関する大変な仕事があり、すぐに島が日本になるわけではない』とも説明した。平和条約の締結前に色丹、歯舞を引き渡すと言うなどあり得ない」

―国後、択捉両島は

「2島の引き渡し後、環境が整った場合に協議することを提案した。『環境』として必要なのは、日露の世論が平和条約締結

や2島引き渡しに納得し、それが両国の信頼関係強化につながったと認識することなどだ。色丹、歯舞に続いて国後、択捉を引き渡すといった約束はしていない」

―日本側の反応は

「話を聞いた渡辺氏は少し黙り、同席していた斉藤邦彦外務審議官（当時）を見やった上で、受け入れられないと答えた。四島全てを求めるといのが日本の立場だったからだろう。渡辺氏が92年8月に訪露した際、もう非公式提案への言及はなかった。日本政府がこの提案を議論し、受け入れてくれることを期待していたので残念だった」

―神の前で事実を語ったと言えるか

「私は、神は信じないが、良心に従って話した」

（遠藤良介）

◇

ゲオルギー・クナーゼ氏 1948年生まれ。ロシア屈指の日本専門家。外務次官（91～94年）、駐韓国大使（94～97年）を歴任。現在は人権問題全権代表部次長、世界経済国際関係研究所（I MEMO）主任研究員。

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130329/erp13032922030006-n1.htm>

○ ロシア人富豪ベレゾフスキー氏は首つりで死亡=英警察

〔ロンドン 25日 ロイター〕 英ロンドン郊外アスコット

の自宅で死亡しているのが見つかったロシア新興財閥の富豪ボリス・ベレゾフスキー氏（67）について、英警察は 25 日、同氏は首をつって死亡したと発表した。

警察は検視の結果、同氏には争った形跡はなかったとした上で、毒物検査など死因の特定に向けた調査をさらに行うとした。

ソ連崩壊後のロシアで実業家、政治家として台頭したベレゾフスキー氏は 2000 年、プーチン大統領と対立して英国に亡命。その後もプーチン批判を繰り返し、最も強硬な反プーチン派と

して知られるようになった。

同氏の知人らは、ロシアの富豪ロマン・アブラモビッチ氏との巨額賠償請求訴訟で敗れた心労から自殺を図った可能性がある」と話していた。

<http://jp.reuters.com/article/jpRussia/idJPTYE92P01120130326>

【西アジア】

○ シリア3月の死者 6000 人超、過去最悪に＝人権団体

2013 年 04 月 2 日 09:34 JST

【ベイルート 1 日 ロイター】 英国を拠点とする「シリア人権監視団」は 1 日、内戦が続くシリアで 3 月の死者が 6000 人を超え、1 カ月の死者数として過去最悪になったと発表した。

このうち 3 分の 1 は民間人で、子どもの犠牲者は 300 人近くだという。

同団体は、約 2 年間続くシリア内戦で、死亡が確認されたのは 6 万 2 5 5 4 人だと発表。ただ、実際にはさらに多くの方が犠牲になったとみており、その数は推計約 1 2 万人に達するという。

国連は、シリア内戦の死者が 7 万人を超えたと発表している。シリア人権監視団はアサド政権への反対を表明しているが、政権側と反体制側の両方による人権侵害を調査している。

http://jp.reuters.com/article/jp_mideast/idJPTYE93100C20130402

○ シリア首都の大学に反体制派が迫撃砲、学生 15 人死亡＝国営通信

2013 年 03 月 29 日 09:54 JST

【ベイルート/イスタンブール 28 日 ロイター】 内戦が続くシリアの首都ダマスカスで 28 日、大学の構内に反体制派の迫撃砲が撃ち込まれ、学生 15 人が死亡したと、国営通信 SANA が報じた。

SANA によると、迫撃砲が着弾したのはダマスカス大学の食堂で、周辺には国防省や国営メディア本部、大統領官邸がある。同大学の学長は、犠牲者数を当初発表の 12 人から 15 人に引き上げたという。

反体制派側の人権団体「シリア人権監視団」は、迫撃砲により大学で 13 人が死亡したと発表。迫撃砲を撃ち込んだ勢力は明らかにならなかった。

<http://jp.reuters.com/article/idJPTYE92S00H20130329?rpc=188>

【南アジア】

○ 文民政権、初の任期満了 パキスタン、総選挙へ

2013. 3. 17 10:03 [選挙]

16 日、パキスタン南部カラチで、アシュラフ首相のテレビ演説を聞く人々（AP＝共同）

パキスタン下院は 16 日、5 年間の任期を満了し、解散した。軍事政権が断続的に続いてきた同国で、文民政権が任期を全うしたのは初めて。60 日以内に実施される総選挙に向け、近く選挙管理内閣が発足、選挙管理委員会が投票日を正式決定する。

パキスタン人民党（PPP）主導の連立政権は、ザルダリ大統領やアシュラフ首相が最高裁から汚職疑惑を追及されており、軍とも対立を深めたことで求心力が著しく低下していたが、かろうじて任期を乗り切った。

国内ではイスラム武装勢力によるテロが相次ぎ、治安は改善しないまま。深刻な電力不足を抱え、経済も低迷するなど内政課題が山積しており、PPP は次期総選挙で苦戦を強いられそうだ。（共同）

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130317/asi13031710050001-n1.htm>

○ パキスタンのムシャラフ前大統領、復権目指し帰国に意欲 2013. 3. 19 20:19

【ニューデリー＝岩田智雄】事実上の亡命生活を送っているパキスタンのペルベズ・ムシャラフ前大統領は任期満了に伴い

5 月中旬までに行われる同国の総選挙に参加するため帰国して政界へ復帰する意欲を示している。しかし、ベナジール・ブット元首相暗殺事件に関連して逮捕される可能性があるほか、イスラム武装勢力から命を狙われており、帰国が実現するかどうかは不透明だ。

3 月 1 日、ドバイで記者会見したムシャラフ氏は「私に対する容疑や身の危険があるそうだが、恐れていない。（どうなるかは）神に委ねる」と述べ、帰国の意思を強調した。同氏はその後、24 日にパキスタン南部カラチに戻り、支持者 5 万人の集会に参加すると発表。自ら設立した新党を率い総選挙に臨むという。

パキスタンでは、2007 年に現与党パキスタン人民党の総裁だったブット元首相が、やはり事実上の亡命先から帰国後に暗殺された。当時、大統領だったムシャラフ氏には適切な警備態勢を取らなかったとの容疑がかけられており、裁判所がムシャラフ氏から事情を聴くため逮捕状を出している。上院もムシャラフ氏が帰国すれば逮捕、起訴すべきだとの決議を採択した。

さらに、大統領時代イスラム武装勢力への厳しい取り締まりを断行したムシャラフ氏は何度も暗殺未遂事件に遭っており、帰国すれば身に危険が迫るのは明らかだ。

こうした事情から、ムシャラフ氏は昨年 1 月にも帰国の意思を示しながら、実行に移すことはできなかった。ただ 69 歳の

ムシャラフ氏にとって今回の総選挙の機を逃せば、政界復帰や帰国がいつそう難しくなるのは間違いない。それだけに帰国により強い熱意を燃やしているようだ。

ムシャラフ氏は陸軍参謀長だった 1999 年、クーデターを起こし、その後大統領に就任した。しかし、政権末期には、人民党や最高裁から強権政治を激しく批判され、ブッシュ米政権からも民主的な対応を要求されて兼務していた陸軍参謀長を辞任した。

組織として強大な力を持つ軍のトップの職責を失った後は「独裁者」の地位を保てず政権の弱体化に拍車がかかり、大統領職の辞任と事実上の亡命生活へと追いやられた。

今回、帰国しても軍の十分な保護を受けられるとは限らず、ブット氏にとっての人民党のような強固な支持基盤もない。パキスタンではすでに「過去の人」との印象が強い。

パキスタンの安全保障・政治評論家、カムラン・シャフィ氏は「かつての陸軍参謀長が法廷で裁かれることになれば、軍にとってやっかいなことになるため、軍はムシャラフ氏に帰国しないよう求めているといわれている。帰国できるとは思わない」と話している。

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130319/asi1303192020001-n1.htm>

○ インド北部のレイプ事件 最下層の少女が標的に

2012. 11. 5 09:05

レイプ事件急増への抗議デモで、制止に入った警察隊に向け、怒りの声を上げる女性＝10月15日、ハリヤナ州ロータク (A P)

インドでは、北部ハリヤナ州で被害者が焼身自殺するなどのむごたらしいレイプ事件が相次いで伝えられ、これまで議論されることすらまれだった、女性に対する暴力への問題意識が高まった。レイプ被害者は身分制度最下層の少女であることが多い。近年のレイプ事件の急増は、女性の社会進出が要因の一つだと指摘される。きょうのテーマは「インド北部のレイプ事件」とした。(SANKEI EXPRESS)

■最下層の少女が標的

ハリヤナ州はデリー首都圏に隣接しており、州内の町村はニューデリーからそう遠くないところにある。英BBCなどによると、9月9日、州内の小さな村で、16歳の少女が大勢の男たちに襲われ、3時間近くにわたり7人にレイプされた。少女はインドの身分制度カーストの最下層民ダリットの出身だった。「しゃべったら殺すぞ」と脅され、黙っていた。だが、男たちの1人がレイプの様子を携帯で撮影。村中に流され、被害者の父親の目に触れた。父親は9月18日、殺虫剤を飲んで自殺した。

10月6日、別の村のやはり16歳のダリット出身の少女が、昼食を取ろうと畑から自宅に向かっていたところ、2人の男たちに別の家屋に連れ込まれ、レイプされた。もう1人の男が家屋の前で見張っていた。叫び声を聞いた父親が現場に駆けつけたときには、男たちの姿はなかった。住民らが集まってくると、少女はその場を逃れ、親戚(しんせき)の家へ行って灯油をか

ぶり焼身自殺した。センセーショナルな事件は全国的な話題となり、市民団体などが、暴力と取り締まり当局の無策に抗議の声を上げた。

■原因はグラビア！？

ハリヤナ州は保守的な土地柄で、多くの町村は昔からあるそれぞれの「評議会」が実質的に支配している。男性だけがメンバーになれば、カーストには厳格だという。評議会支配がレイプ多発の土壌を作っているとの指摘もある。評議会議長老らのレイプ事件に対する認識はどんなものなのか。いくつかの発言が伝えられている。

「最近新聞や雑誌、テレビに半裸の女性が氾濫し、青年を墮落させた。これがレイプ事件の原因だ。ここはインド。欧州のようにはならない」

「私は女性は16歳までに結婚すべきだと考える。夫婦間の交渉で満たされればレイプ事件は起きない」。インドでは「幼児結婚」が広く行われ、国際的に問題視されている。

インドの与党、国民会議派のソニア・ガンジー総裁(65)はハリヤナ州に赴き、「レイプ事件を強く非難する。罪を犯した者は厳しく罰せられるべきだ」と述べた。だが、国民会議派の地元幹部の認識は、評議会議長老たちとほとんど変わらないようだった。「レイプの90%は同意の上」と発言して、市民団体などの猛反発を買った。

■女性の社会進出に反感も

インドでのレイプの報告件数は2006年の1万9300件から11年には2万4600件に増えた。ハリヤナ州では同じ期間に608件から733件に増加している(州内で1日2件の届けがあったことになる)。

被害者が声を上げるようになったことも一因とみられるが、米ニューヨーク・タイムズ紙は、専門家の話から女性の社会進出も要因の一つだと指摘している。経済成長に伴い、より多くの女性が高等教育を受け、仕事を持ち、伴侶を(親でなく)自分で決めるようになった。これに対し、自分たちの領域を侵されたと感じる一部の男性がストレスを募らせているというのだ。

インドの市民団体は10月15日、ニューデリーに近い州内のロータクなどで、急増するレイプ事件への厳格な対応を求めてデモを行った。

(編集委員 内島嗣雅(うちはた・つぐまさ)) / SANKEI EXPRESS

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/121105/asi1211050910001-n1.htm>

○ インドへの女性観光客、35%減 レイプ事件でキャンセル相次ぐ 2013. 4. 2 08:00

インド商工会議所連合会はこのほど、昨年12月中旬からの3カ月間で、同国への女性の外国人観光客が前年同期に比べ、35%減少したとする調査結果を明らかにした。

昨年12月にニューデリーで起きた女子学生に対する残虐な集団レイプ事件から「治安が悪い」「危険」などのイメージが広がり、敬遠されたとみられる。男性を含めた外国人観光客全体でも25%減だった。インドで冬季は観光シーズン。観光産業

に大きな打撃となりそうだ。

調査は 1200 社の観光業者が対象。72%が欧米などから女性客のキャンセルがあったと答えた。会議所は「外国人のインドに対するイメージを改善しなければならない」と強い危機感を示している。

昨年 12 月の事件後もインドではレイプ事件が相次いでいる。

【東南アジア】

○ ナジブ首相が下院解散総選挙へ 注目される長期政権への審判 マレーシア 2013. 4. 4 00:50 (1/2 ページ)

3 日、連邦下院の解散を発表するマレーシアのナジブ首相。テレビ映像から (ロイター)

【シンガポール=青木伸行】マレーシアのナジブ首相は 3 日、連邦下院 (定数 222、任期 5 年) を解散し選挙戦に突入した。国民の間にはナジブ政権への不満が高まっており、1957 年の独立以来、56 年間におよぶ与党連合の長期政権に、有権者がどのような審判を下すのか注目される。

投開票は憲法の規定で、解散から 60 日以内に行われる。首相はテレビ演説で「経済は強くなり、自由は拡大している。変革は道半ばで、前進へ向けた投票を望む。未来のために賭けはしないでもらいたい」と述べ、政権交代の道を選択しないよう呼びかけた。一方、野党連合・人民連盟を率いるアンワル元副首相は「民主主義と責任ある政権を選択する機会だ」とし、政権交代の好機とみる。

2008 年 3 月の総選挙では、野党が解散時から 4 倍以上の 82 議席を獲得し、当時のアブドラ首相は翌年 4 月に退陣に追い込まれ、副首相のナジブ氏がバトンを引き継いだ経緯がある。

ナジブ首相はこの 4 年間、経済改革を進め成長を促進してきた。だが昨年、一昨年と、クアラルンプールで民主化と変革、選挙制度改革を求める大規模なデモに見舞われ、深刻な汚職問題と合わせ、長期政権への国民の不満は強い。

66%を占めるマレー系への優遇政策 (ブミプトラ政策) に対する中国、インド系など、少数派の不満も払拭されずにいる。インターネットの普及と若者の著しい意識変化は、野党に追い風になるとみられている。

東南アジア研究所 (シンガポール) のオイ・キベン副所長など、専門家の分析や世論調査では、現時点で与党連合・国民戦線が優勢ではあるものの、野党連合との差は接近し、支持政党未定の者も多い。与党連合の苦戦も予想される中で、「公正な選挙」が注視されている。

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130404/asi13040400520000-n1.htm>

○ 報道変わるか 半世紀ぶり民間日刊紙復活 ミャンマー

2013. 4. 1 21:28

1 日、ミャンマーの最大都市ヤンゴンで、日刊紙の印刷過程の紙面を見比べる作業員 (AP)

【シンガポール=青木伸行】ミャンマーで 1 日、1965 年

に禁止された民間日刊紙の発行が、約 50 年ぶりに再開された。民主化に伴う報道規制緩和の一環。この日は政府が発行を許可した 16 紙のうち、4 紙が先行して街にお目見えした。これまで政府の宣伝媒体である国営紙で占められてきた日刊紙に、民間紙が参入したことで、報道に新風が吹き込まれるものと期待されている。

1 日に発行されたのは、「ボイス・デーリー」「スタンダード・タイム」、与党・連邦団結発展党 (USDP) の「ユニオン・デーリー」など。ボイス・デーリーは 24 ページ。3 万 5 千部発行のユニオン・デーリーは 20 ページで一部 150 チャット (約 15 円)。主に最大都市ヤンゴンで販売された。最大野党・国民民主連盟 (NLD) の党首、アウン・サン・スー・チー氏の今月予定される訪日や、仏教徒とイスラム教徒の衝突などの記事が、各紙の 1 面のトップを飾った。

報道規制の緩和措置は、昨年 8 月の新聞の事前検閲制度廃止に続くもの。発行が許可されているのは 8 個人・団体で、スー・チー氏も含まれ、NLD は党機関紙を日刊紙に衣替える。

ミャンマーに初めて登場した新聞は、1836 年 3 月 3 日に発行された、英領ビルマ (ミャンマー) 時代の英字新聞「モールメイン・クロニクル」だといわれる。英国から独立した 1948 年以降の 14 年間は、言論と報道の自由を「謳歌 (おうか)」した時代だった。

そうした「メディアの春」も 62 年、ネ・ウィン将軍が軍事クーデターで社会主義的な軍事独裁政権を打ち立てると、終わりを告げる。新聞の多くがつぶされ、あるいは国営化されて、65 年以降は民間の新聞と雑誌はすべて、週刊か月刊に規制されてきた。

久方ぶりの「春」の訪れに、ボイス・デーリーの幹部は「印刷機や記者の確保など、事前の準備に数カ月間を費やしてきた」という。「日刊紙の発行で言論と報道、表現の自由がより進むことを望んでいる。何をどこまで報じていけるのか、紙面の工夫など課題は多い。政府との戦い、各紙間の競争が新たに始まった」と意気込む。

「国境なき記者団」(本部パリ) の「2013 年報道の自由度ランキング」によると、ミャンマーはなお 151 位。残る課題は事後検閲の廃止による検閲制度の全面撤廃と、新報道法案の策定に絞られている。

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130401/asi13040121300002-n1.htm>

【東アジア】

○ 北朝鮮が特別声明、「韓国と戦争状態に突入」=KCNA

【ソウル 30 日 ロイター】北朝鮮は 30 日、韓国と「戦

争状態」に突入するとの特別声明を発表した。朝鮮中央通信 (KCNA) が伝えた。

声明は「今後、北南関係は戦争状態に突入し、北朝鮮と韓国間のすべての問題は、戦時に準じて処理される」と警告している。KCNAによると、同声明は、政府と政党、その他の団体の共同名義で出された。

北朝鮮が2月に強行した3度目の核実験に対しては、国連安保理が新たな制裁を決議。北朝鮮はそれに反発する形で米国と韓国への強硬姿勢を強めており、3月に米韓合同軍事演習が始まってからは、米軍基地に対する攻撃も連日のように警告している。

KCNAによると、金正恩第1書記は29日未明には軍幹部との会議を招集し、必要な時に米国本土やハワイやグアムなどの太平洋地域、および韓国にある米軍基地を攻撃できるよう、待機命令を出した。

<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTYE92T00020130330/>

○ 中国が北朝鮮に「重大な懸念」 米韓にも伝える 朝鮮半島情勢めぐり 2013. 4. 3 18:38 [中国]

中国外務省の洪磊副報道局長

中国外務省の洪磊副報道局長は3日の定例記者会見で、張業遂外務次官が2日午後中国に駐在する北朝鮮、米国、韓国の大使に、最近の朝鮮半島情勢をめぐり「重大な懸念」を伝えたことを明らかにした。

北朝鮮が寧辺の黒鉛減速炉（原子炉）再稼働を表明したことに対し、北朝鮮側に懸念を伝え、米韓には両軍の軍事演習などで北朝鮮を刺激したとして自制を求めたとみられる。

また南北経済協力事業が行われている北朝鮮の開城工業団地について、北朝鮮当局が韓国側関係者の入境禁止を通知したことを受け、洪氏は「双方が対話を通じて問題を解決することを望む」と強調した。（共同）

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130403/chn1304031840007-n1.htm>

○ 金正恩氏、イメージアップに懸命 仮想緊張下で各国の思惑 2013. 4. 2 20:00

【ソウル＝黒田勝弘】「戦時体制突入」を宣言するなど軍事的緊張を高める北朝鮮が今度では中断されていた原子炉の再稼働を発表し、核能力強化の姿勢を改めて鮮明にした。

北朝鮮の相次ぐ“強硬策”に対し米国は、韓国との合同演習に米本土や沖縄からB52、B2爆撃機や最新鋭F22戦闘機など高性能兵器を続々、投入。韓国政府もまた「北の挑発には

政治的考慮は一切せずに直ちに強力に対応する」（朴槿恵＝パク・クネ＝大統領）と強硬姿勢を表明している。

朝鮮半島情勢は北朝鮮と韓国、米国の3者がいずれも対決モードで表面的には“一触即発”の危機に見えるが、一方では米韓の軍事当局は「北朝鮮軍に異常な動向は見られない」といい平壤やソウルはきわめて平静だ。

ソウルの専門家筋によると北朝鮮の緊張激化策のホンネは2つ。1つは対内的に年齢と経験不足から軍および国民の間でいまだ忠誠心が高まらない金正恩（キム・ジョンウン）第1書記に対するイメージアップと、もう1つは対外的に米国を直接交渉に引き出すための存在誇示だ。

今回、北朝鮮は金第1書記が韓国との最前線地域や部隊司令部などで現場指揮にあたっている映像をしきりに流している。軍事優先国家の最高指導者として金第1書記が「危機」の中でいかに軍に信頼され軍を統率しているかを演出しているのだ。

戦略ミサイル司令部訪問の映像では「戦時体制突入」にもかかわらず平服で書類をめくる金第1書記を通常の軍服姿の軍高官たちが取り巻いているというのんびりした風景になっている。米韓演習をきっかけにした北朝鮮の「仮想軍事緊張」は、権力の核心である軍部と金第1書記の一体感を強調し国民の忠誠心を確保するための得意の宣伝扇動策というわけだ。

ミサイル司令部訪問では壁にわざわざ「戦略軍米本土打撃計画」と書かれた作戦図(?)が掲示されていた。米本土攻撃という大胆さで金第1書記の指導者としての「大胆さと偉大さ」を国民に印象付けようとの演出である。

北朝鮮の軍事緊張策は25日の朝鮮人民軍創建記念日を経て米韓合同演習「フォールイーグル」が終わる4月末までは続きそうだが、韓国の朴槿恵政権もスタート直後の国政運営の乱れに世論の批判や不満がある。「北の脅威」を背景に「安保重視」で国論をまとめるには軍事緊張は好都合という面もある。

米国もまた北朝鮮の核への対抗策として韓国内で起きている独自の核武装論を沈静化させる必要がある。有事の強力な対韓支援を印象付けるため「頼りになる米軍」の戦力誇示に力を入れているとの見方もある。

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130402/kor13040220020005-n1.htm>

【愛川サライ動向】

I ホットとベンチの設置始まる

愛川サライも一員として参加するまちづくりネットワーク中津川（諏訪部勲代表）は、水の里愛川「ホットとする空間「中津川水辺プロジェクト」の一環として進めているホットとベンチプロジェクトは、作業場を愛川町下三輪の空き地で始まった。これまでに、10数脚の桧製ベンチが完成、設置希望者に一脚5,000円、作業参加者には3000円で譲り、町内の利用しやすい道路脇空き地などに設置され始



めました。町内の有志、諸団体に参加を呼びかける予定で、地域のコミュニティスポットとして普及されるめどが立ちました。まちづくりネットワークでは、作業参加者を募集している。ベンチ用の丸太材は、神奈川県産材でチップを加工する三六木工株が神奈川県産材の利活用につながればと、無料で寄贈していただきました。

